大和総研
Daiwa Institute of Research

2013 年 2 月 26 日　全 3 頁

イタリア総選挙速報

下院は中道左派が僅差で勝利、上院は分裂で、政局は混沌

経済調査部
シニアエコノミスト 山崎 加津子

［要約］

■ 2013 年 2 月 24、25 日に実施されたイタリア総選挙は、モンティ政権の緊縮財政路線への評価が問われたが、予想された以上に大接戦となった。世論調査でリードしていた中道左派は下院は僅差で第 1 勢力となり、規定により過半数の議席を獲得した。しかし、中道右派、および既成政党を批判する「五つ星運動」の躍進で、上院は議席の過半数を獲得できる勢力が形成されない見通しである。

■ イタリア上院は下院と同程度の権限を有し、政権誕生には下院だけでなく、上院の承認も必要となる。中道左派は政権獲得に強い意欲を示しているが、モンティ前首相率いる中道派を合わせても、上院の過半数には届かない。五つ星運動または中道右派と何らかの協力関係を結ぶのか、モンティ政権のような超党派政権が作られるのか、それとも再選挙となるのか、見通しは不透明である。

■ 中道右派、五つ星運動の得票を合わせると、過半数が緊縮財政へ批判票を投じたことになる。この「民意」を政治と市場がどう受け止めるか、また緊縮財政を強要してきたユーロ圏諸国がどう受け止めるかも今後の注目点となろう。

予想以上に僅差となった下院選挙

イタリアで 2 月 24、25 日に行われた総選挙では、上院（定数 315 議席）と下院（同 630 議席）の双方の選挙が実施された。このうち下院選挙では、事前の世論調査でリードが伝えられていた中道左派が第一勢力となった。イタリアでは小政党が多数存在する中で安定政権を形成する目的で、下院で第 1 勢力となった政治連合に 340 議席が保証されることになっている。このため、民主党（PD）のベルサーニ党首が率いる中道左派は下院で過半数を獲得した。

しかしながら、イタリア内務省発表の得票率（開票率 96%時点）によれば、中道左派の実際の得票率は 29.54%で、ベルルスコーニ元首相が率いる中道右派の 29.18%とごくわずかな差しかない。また、既成政党批判を展開する五つ星運動が大躍進し、得票率 25.55%で第 3 勢力に台頭した。中道左派も中道右派も選挙協力を結んだ複数の政党から形成されており、個々の政党

このレポートは投資勧誘を意図して提供するものではありません。このレポートの掲載情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。㈱大和総研の親会社である㈱大和総研ホールディングスと大和証券㈱は、㈱大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。内容に関する一切の権利は㈱大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等はご遠慮ください。

の得票率を比較すると、実は五つ星運動が第 1 党に躍進している。なお、モンティ前首相を中心に据えた中道陣営は第 4 勢力となったものの、得票率は 10.56%と伸び悩み、議席獲得数も 45 議席にとどまっている。

図表１　イタリア下院の選挙結果（開票率 96%）

	得票率%	議席数
中道左派陣営	29.54	340
民主党(PD)	25.41	292
左派・環境・自由党	3.20	37
その他政党	0.92	11
中道右派陣営	29.18	124
自由国民党	21.56	97
北部同盟	4.08	18
その他政党	3.49	9
五つ星運動(既成政党批判の新党)	25.55	108
イタリアのためにモンティと共に(中道)	10.56	45

出所：イタリア内務省データより大和総研作成

上院では過半数を得た勢力なし

下院では全国での得票率を基準に議席が配分されるのに対し、上院は 20 選挙区の代表者で構成されるため、議席配分は各選挙区単位で、それぞれの第 1 勢力に最低 55%の議席を配分する。となると、中道右派の北部同盟のように支持率に地域的な偏りのある政党の方が有利になる。開票率 96%時点で、獲得議席数は中道左派が 113 議席、中道右派が 116 議席と、中道右派がリードしている。もっとも、上院の過半数は 158 議席なので、どちらも単独では届かず、中道左派はモンティ陣営と組んでも、過半数獲得は難しい情勢である。

図表２　イタリア上院の選挙結果（開票率 96%）

	得票率%	議席数
中道左派陣営	31.63	113
民主党(PD)	27.43	105
左派・環境・自由党	2.97	7
その他政党	1.23	1
中道右派陣営	30.72	116
自由国民党	22.30	98
北部同盟	4.33	17
その他政党	4.09	1
五つ星運動(既成政党批判の新党)	23.79	54
イタリアのためにモンティと共に(中道)	9.13	18

出所：イタリア内務省データより大和総研作成

選挙結果から読み取れること

総選挙前の大方の見方は、世論調査でリードしていた中道左派が、単独もしくは中道陣営の協力を得て政権を得て、緊縮財政政策を継続するというものであった。もっとも、メディア王

との異名をとるベルルスコーニ元首相が大々的な選挙キャンペーンで終盤に大きく追い上げていたため、上院で票が割れることは懸念材料となっていた。中道左派は下院だけでなく上院でも得票率1位となっているが、中道右派、五つ星運動との差はかなりの僅差となった。

ベルルスコーニ元首相はモンティ政権の緊縮財政政策は、EU とりわけドイツに押し付けられた政策であり、中道右派政権となれば早急に不動産税などを撤廃すると約束していた。同氏の過去の選挙公約は必ずしも守られてはいないのだが、選挙結果をみるとそのような過去は重視されなかった模様である。一方、五つ星運動は、既成政党とその政策を批判し、国会議員定数の削減、ユーロ圏離脱を問う国民投票の実施などを主張している。新勢力であるためその力量は未知数だが、既成政党に対する批判票を集め、今回の選挙では予想以上に躍進した。

ここから読み取れるのは、イタリア国民が緊縮財政で疲労困憊し、閉塞感を強め、その状況の打破を約束した政党を支持したということである。イタリアの2012年の経済成長率は－2.2%とマイナス圏に落ち込み、年末の失業率は11.2%と14年ぶりの高水準にある。

今後の見通し

下院で過半数を得た中道左派は、次期政権樹立に強い意欲をみせている。ただし、イタリアでは上院が下院と同程度の権限を有し、政権誕生には下院だけでなく、上院の承認も必要となる。その上院で、中道左派はモンティ陣営と協力しても過半数には届かず、今後の政権樹立交渉がどのような展開をみせるか不透明となってしまった。

今後想定されるシナリオとしては、上院での多数派工作のため、中道左派が五つ星運動または中道右派と何らかの協力関係を模索することが考えられる。五つ星運動は既成政党を批判し、政権入りはしないとしてきたが、今後の対応には含みをもたせているようである。そのような連立交渉が失敗した場合には、ナポリターノ大統領が主導して、これまでのモンティ政権のような超党派政権が作られる可能性が考えられる。それでも政権樹立ができない場合には再選挙の可能性も否定できない。

不透明な情勢が長期化することは、金融市場がもっとも嫌うところである。総選挙前から神経質な展開をみせていたイタリアの長期金利は、安定政権樹立の期待を裏切られ、上昇に転じる可能性が高い。昨年夏にECB（欧州中央銀行）が無制限の国債買取を表明して以降、低下局面にあったイタリア国債利回りが明確に上昇に転じれば、ユーロ危機再燃への懸念も高まろう。

ユーロ圏危機を解決するには、各国が財政健全化を実現することが必要である。ただし、緊縮財政政策が各国の景気を悪化させ、国民を疲弊させ、さらには財政健全化の成果も上がりにくい結果につながりつつある。この状況を打開する一つの鍵は、ユーロ圏が財政健全化に加えて、経済成長にも配慮した政策を取ることにあると考えられる。イタリアでは中道右派、五つ星運動の得票を合わせると、過半数が緊縮財政へ批判票を投じたことになるが、この「民意」を緊縮財政を強要してきたユーロ圏諸国がどう受け止めるか、経済成長にも重点をおいた政策へと転換できるかも今後の注目点となろう。